

全買連ニュースレター 新年号 (第12号)

ZENBAIREN News Letter 2020/1/1

文責、事務局長 草野

年頭挨拶

全国木材市売買方連盟会長 早川金光



新年明けましておめでとうございます。

今年は新春から始まる令和初めての年となっています。

皆様方には本連盟の運営に格別のご理解とご協力を賜り心から厚く御礼申し上げます。

2019年は、令和に改元され、令和天皇の即位を祝う一連の行事に国民の新たな時代への期待感があふれていました。

一方、世界を見ると自国中心主義の台頭、貿易紛争、英国のEU離脱など欧州の政治経済の不安定さもあって予断を許さぬ情勢にあります。

国内では、ラグビーワールドカップで日本チームの、「ワン・チーム」を合い言葉にベスト8という快挙がありましたが、台風15号、19号、それに引き続く豪雨と広範囲で命の危険に及ぶ気象災害が頻発しました。私が居住する千葉県も強風、豪雨に見舞われ、倒木による長期間の停電と製材機械が雨水をかぶり工場の休業という事態になってしまいました。お陰様で今では平常に戻りつつありますが、人手不足もあってブルーシートをかけた屋根が多く全体としては復興半ばです。被災された方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復旧を願っております。

このような中、我が国の経済動向は、雇用・所得の順調な推移を背景に穏やかな回復基調にあるとされていますが人手不足や消費税アップの影響もあって個人消費の伸び悩みが続いています。

森林・林業界では、人口減少に拍車がかかり住宅分野への需要が鈍化する傾向にある中、公共建築物はもとより、最近ではSDGs（持続可能な開発目標）の取組みの普及や森林環境譲与税の交付もあって、福祉・子育て施設、都市部のオフィス、店舗などの非住宅分野、リフォームへの木材利用拡大の兆しも出ています。

我が国の森林資源は、人工林を中心に充実し、十分な供給能力（余力）がある本格的な資源利用期に移行しており、これらを活かし、需要の創出と、地域材の安定供給体制の構築が進められています。

また、合法伐採木材や森林認証材への関心が高まっているものの一部の地方での誤盗伐の発生にみられるように、過疎化や森林への関心の薄れもあって森林の管理が適切に行われない、伐採した後

に植林がなされないという事態も発生しています。森林の適切な経営管理が行われないと、災害防止や地球温暖化防止など森林の公益的機能の維持増進にも支障が生じることとなります。

木材の利用は、快適で健康的な住・職場環境等の形成に寄与するだけでなく、地球温暖化の防止、森林の多面的機能の持続的発揮や地域経済の活性化に貢献します。

森林林業界が「ワン・チーム」で結束し、あらゆるところに木材を使ってもらおうという「ウッドチェンジ」を合い言葉に「伐って 使って 植える」といった循環利用で森林を元気にすることが重要な時代となっています。

このような中、私の周囲では将来の事業展開の方向を川上との連携、オフィス、店舗などの都市部の非住宅分野の木材需要の喚起、ICTの活用によるサプライチェーンの構築を目指す若手後継者達の動きがあります。彼らの想いを真摯に受け止め適切なアドバイスや応援が必要と感じています。

また、最近、全買連に、材木業を通じて木材流通を研究したいという女子学生が尋ねてきており論文の作成に協力しております。

全買連と致しましては、このような新たな動きも踏まえ、合法木材供給事業者、国産優良木材取扱店等の皆さんを中心に国産材の利用拡大推進活動、JAS製品、合法木材など安全・安心で品質の確かな木材の安定供給、子供たちを対象とした木育活動の推進、適時適切な情報の発信、更に組合員の相互扶助事業としての全買連共済保険制度や経営者年金制度の充実に取り組んで参ります。皆様方のなお一層のご支援をお願い申し上げます。

今年の干支は、庚（かのえ）と子（ね）は相性もいよいよ「子」「増える」という意味合いがあります。東京オリンピック・パラリンピックの年でもあり、景気回復、木材利用増加、次代の人材の育成にチカラを結集する年としたいものです。

皆様方のご健勝とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

全買連の活動

木材関連事業者登録推進セミナー・個別相談会(合法木材供給事業推進セミナー)in 大阪を開催

全買連では、首都圏においては全市連、全木連と共催で「合法木材供給事業推進セミナー」を毎年実施していますが、11月12日大阪木材仲買会館において実施しました。

これは、合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（通称クリーンウッド法：略称 CW法）が施行されて2年半となり、SDGs 取組みの普及もあって合法木材、認証材への関心が高まり、今後、合法性が確認された木材の利用が促進することから、全買連が、一般社団法人全日本木材市場連盟、一般社団法人全国木材組合連合会との共催により関西地区で初めて認定事業者等を対象に合法伐採木材等に関する知見を深めていただくとともに制度の適切な運用を行っていただくためのセミナー・個別相談会として開催したものです。

当日は、申込み者42名のうち38名が参加。全買連事務局長の進行により13時開始。

まず、松山能久全買連副会長（大阪木材仲買協同組合理事長）より、「最近、SDGs の取組みや森林環境譲与税の導入もあって、合法木材や認証材への関心が高まっている。一方、国産材は違法伐採とは無縁との認識であったが一部の県で誤盗伐が発生していると聞いている。本日のセミナーにおいて、合法木材等に関する知見を深めるとともに CW 法の適正な運用に努めてもらいたいとの開会挨拶があり、その後3講師による次のタイトルの講義が始まりました。

① 国産材時代に向けて ー信頼される木材を使っていたくためにー
一般社団法人 全国木材組合連合会 常務理事 森田 一行

② 合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（クリーンウッド法）の概要と
意義について

林野庁 林政部林政課 兼木材産業課・木材利用課 林業・木材産業分析官 河野 晃

③ クリーンウッド法の事業者登録について

ークリーンウッド法（合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律）の概要と登録制度ー

公益財団法人 日本合板検査会 大阪検査所 所長 稲本吉高

それぞれの講義後の質問は無く、14:15分に10分間の休憩を取り講義を続け、15時15分に終了。その後、総括して質問を募りました。

最初に、参加者からのあらかじめ受けていた質問2題（CW認定のメリット、CW認定とガイドライン認定との関係）を示し、林野庁及び全木連から回答がありました。その後これに関連する質問やその他の質問が5事業者からあり、それぞれについて講師から回答がありました。

また、特別に参加していた京都大学の学生にCWについてどのような印象を持ったかを聞きました。最後に、全買連事務局長から企業等の合法伐採木材や認証材の利用について、ウッドソリューション・ネットワークが発行した「時流をつかめ！企業価値を高める木造建築」を例に今後益々関心が深まることを説明し、事業者認定の継続、CW法の認定の取得を要請し、その後、受講者に受講証明書を授与して15:40分セミナーを終了しました。

来年は東海地区での開催を計画しています。



講義風景



質問に答える講師

全国の活動より

ー大阪発 大学生向け木育授業ー

大阪からは、平成28年度より実施している建築学科の学生向け「木育授業」の報告です。本年度は、11月30日に、「第1回公開木育授業」を実施しました。

当日は、大阪工業大学、大阪市立大学、大阪教育大学、近畿大学、関西学院大学の学生と後援頂いた近畿中国森林管理局の各地区の職員併せて100名が参加するという大盛況ぶりでした。

9時から10時までは建物の説明と見学を行い、10時から授業を行いました。

一つ目の授業は、奈良県川上村在住の林業アーティストの鳥居由佳氏から「木材産地である吉野林業の現状」。

二つ目の授業は、当組合員の飴村雄輔氏から「日本で独自の発展を遂げてきた木の文化について」説明して頂きました。

今回の木育授業では、個別の大学を対象とするのではなく、大阪近辺の大学に呼びかけ参加者を募るという初の試みで開催しました。木材に興味のある学生が多いことに驚き、真剣に授業を聴講する様子や館内を細部まで見学する姿から、関心の高さが感じられました。

また、学生の授業後のアンケートからも、林業・木材業界の現状への理解が深まり、木材の機能性や役割が伝わった旨の感想が多く寄せられました。



－徳島発 児童木工工作 「木とふれあうコンクール」－

徳島からは、児童木工コンクールについて報告いただきました。

第11回児童木工工作「木とふれあうコンクール」は43校の小学校が参加し、総作品数は1992点、応募総点数115点となり、9月22日に審査が行われ、10月28日から11月7日まで徳島市の徳島県庁県民ホールで県知事賞から買方組合理事長賞までの21点と11月18日から18日まで、徳島県教育会に入賞全作品83点が展示されました。

表彰式は、12月1日徳島県教育会館で行われました。

このうち、全買連会長賞が授与されたのは下記の作品です。

作品名 ゆめときぼうをはこぶきしゃ
洪野小学校 1学年 二羽 竜之輔 くん
(にわ りゅうのすけ)

作品名 魚 いす
津田小学校 3学年 楓 宗紘 くん
(もみじ むねひろ)



どちらも素晴らしい作品です。E C O、地球環境に寄与する再生可能な唯一の資源である「木材」を使った児童木工工作コンクールを今後も続けて欲しいですね。

－東京発 木と暮らしのふれあい展－

東京都木材市場買方組合連合会（都買連）は、10月5（土）6日（日）、東京都江東区都立木場公園にて東京都、東京都木材団体連合会主催の第39回「木と暮らしのふれあい展」に出展しました。

このイベントは「森を育てたい。だから木を使おう。」「受け継ごう。日本の文化、木の住まい。」をスローガンに都内の木材関係団体が賛同して木育や木工品の販売などのなどの企画を持ち寄って開催したもので2日間70,000人の来場者で賑わいました。

都買連は、縁台作り（木工）、箸づくり、吉野スギソゲ箸、まな板、きえすぎくん浮世絵、スノコ販売、木材被写体認識基盤サービス（モクザイトルト）のデモを行いました。縁台作りは毎年好評で、受付と同時にその日の予定分1日30台が予約されます。モクザイトルトは3年目となり、メニューも充実してきました



縁台作りは大盛況



モクザイトルトに興味を示す児童



今年からお目見えした
きえすぎくん浮世絵

－東京発 モクコレ令和元年に出展－

東京都が日本各地と連携して木材製品展示・商談会をおこなう、「WOOD コレクション 令和元年」が12月10,11日東京ビックサイトで行われ、全買連・都買連と協働して木材利用拡大活動を行っている「東京木材市場買方組合東友会」と「木材流通推進協議会」が連携して出展しました。

モクコレは東京都が主催し木材の大消費地である東京でのさらなる木材利用の拡大に向けて、東京だけでなく日本各地の地域材を活用した建材や家具などの製品展示商談会（モクコレ）を平成27年度から開催しており、5回目となる今回は、これまでで最多の41都道府県から268事業者が参加しました。当日の会場には高い技術を駆使した魅力的な木材製品が多数揃い海外の業者を含めたバイヤーなどが多数来場していました。

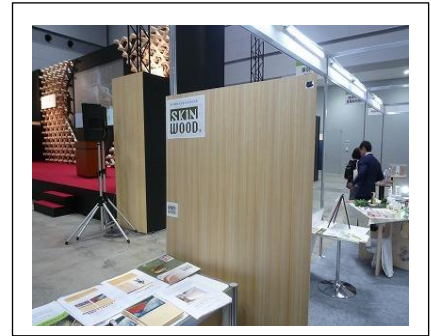
木材流通推進協議会は、東京都のコーナーにブースを構え、木材被写体認識基盤サービス（モクザイトルト）のデモ、きえすぎくん浮世絵、突板合板SKIN WOODなどの紹介と地域材と新木場技術のダブルブランド商品による上下流連携や木材利用推進をアピールしました。



モクザイトルトのデモ



きえすぎくん浮世絵と
ダブルブランドをアピール



新商品SKINWOOD

ダブルブランド (トリプルブランド) アピール

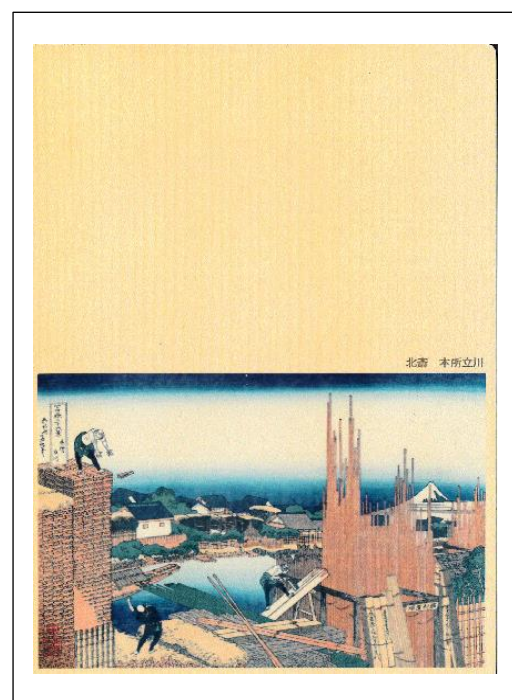
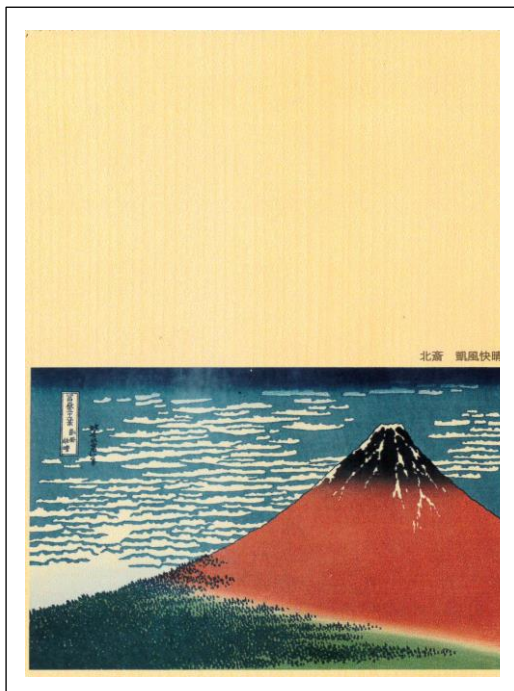
モクコシでアピールしたダブルブランド (トリプルブランド) とは

地域材と新木場の加工技術を上下流を繋いで、新たな商品を開発し木材利用を推進することです。

例えば、下記のような東海道五十三次宿場の地場産ヒノキに新木場の描いて消せるきえすぎくん塗装技術で浮世絵赤富士をプリントしてインバウンド向けや渡航土産のメッセージボードを作る (ダブルブランド)。

自治体産ヒノキに観光名所をきえすぎ加工して、ふるさと納税返礼品を作る

または、木曽ヒノキときえすぎくん加工技術と木曽のヒーローの御嶽海をプリントして応援メッセージボードを作る (トリプルブランド)。仮称：きえすぎくん Hero



皆様のところの地域材と新木場の技術でダブルブランド製品を作いませんか？

きえすぎくん浮世絵販売中

既に、木材流通推進協議会では、浮世絵のA5版赤富士と木場風景のきえすぎくんを制作販売しております。渡航土産などに最適です。お求めの方は全買連事務局が取り次ぎします。

全買連の今後の行事

1. 第47回 JAS 製材品普推進展示会

5会場で開催された今年の JAS 展は終了しました。表彰式は、2月3日(月)13:30分から市ヶ谷ランドヒルズ(東京)で行われます。

2. 総会・理事会

(1) 令和元年度第3回理事会

日時：令和2年1月17日(金)12時～15時

場所：東京江東区 ルートインホテル Grand 東陽町

(2) 第4回理事会(金)

日時：令和2年3月13日(金)

場所：大阪木材仲買会館

(3) 令和2年度第1回理事会

日時：令和2年4月17日(金)

場所：東京都江東区ルートインホテル Grand 東陽町

(4) 第51回全買連総会・第2回理事会

日時：令和元年5月29日

場所：東京都江東区 ホテルイースト21東京

3. お知らせ

全買連「グループ共済」の活用のすすめ

全買連には、組合員事業主及び従業員の福利厚生を目的とした「グループ共済」制度があります。従業員の方の「万一」・・・見舞金や死亡退職金の備えに、ぜひご活用ください。

<グループ共済の特長>

- ◇ お手頃な掛金で大きな保障が得られる掛け捨て型の保険です。
- ◇ 1年毎の収支計算で剰余金が生じた場合は、配当金としてお返しします。
- ◇ 死亡と不慮の事故によるケガの入院を保障します。
- ◇ 業務上・業務外問わず、24時間保障します。
- ◇ 医師の審査がなく、加入手続きが簡単です。(加入者本人の健康告知が必要)
- ◇ 保障期間は1年で、お申し出がなければ、75歳まで自動更新。毎年保障内容の見直し・変更も可能です。
- ◇ 掛金は全額損金算入(必要経費処理)できます。

<これだけ お役に立っています!>

2019年1月～12月25日の支払実績

死亡保険金	6件	18,000,000円
入院給付金	10件	1,422,000円

<お申込みは・・・>

1月・4月・7月・10月 の年4回 受け付けています。

◇ 4月1日からの加入分は、

新規事業所のご加入は 2月20日まで

既加入事業所の追加加入は 2月28日まで 受け付けています。

詳しくは、各組合事務所 又は 全買連事務局 までお問い合わせください。



2020年用

全買連『グループ共済』ご活用のおすすめ

この制度は、全国木材市売買方組合連盟が組合員事業主及び従業員等の死亡や不慮の事故による入院等を保障する、福祉事業の一つです。
万が一の準備として、従業員の生活を守り、勤労意欲を高め、ひいては事業の安定と繁栄をはかることを目的とした制度です。



制度ご活用例



従業員の福利厚生制度を
考えないと・・・



見舞金や死亡退職金の準備を
どうしようか・・・

～ご活用ポイント1～

- ・従業員の方に万一（死亡・高度障害）のことがあった場合、保険金をお支払いします。また不慮の事故による入院を保障できます。
- ・掛金は全額損金算入（必要経費処理）できます。

万一のために
必要な保障は準備しておかないと・・・



～ご活用ポイント2～

- ・お手頃な掛金で、大きな保障が得られる1年更新の制度です。
- ・1年ごとに収支計算を行い、剰余金が生じた場合には配当金として支払われます。〔毎年12月31日現在の在籍加入者にお支払いします〕

編集余話

皆様、明けましておめでとうございます。ニュースレターも12号となりました。今年も出来るだけ多く発行しますので皆様の投稿をお待ちしております。

材木業を研究テーマに論文作成中

慶応義塾大学総合政策学科2年生のS. Oさんが、山村地域の地域振興に興味を持ち森林・林業の川上側を学び、行き着いたところが川下の木材流通(材木業)に関する研究が重要との認識に至りゼミで研究に取り組んでいます。全買連、都買連にアドバイス等を依頼されましたので、これまで市場見学や木材流通について説明してきました。また、新木場などの材木業の方にインタビューを行ない現在も継続中です。

S. Oさんは、研究論文をまとめ2021年の林業経済学会での発表を目指して今後、木材流通業界の方々へのインタビュー、アンケートを実施する予定です。

材木業界に興味を示した稀有な人材、若々しい頭脳で何を導き出すかに興味と期待を持っています。

そしてもうひとり外国からの若者が事務局を訪れました。彼はドイツからの留学生でC.Sさんです。将来は母国でのフォレスターを目指しており、日本での合法伐採木材のことについて知りたいとことでしたので各種の資料を手交しレクチャーしました(日本語で)。



またたま同じ日に全買連事務所を来訪した内外の学生

立っている木の話

今回の「立っている木の話は」シオジです。

群馬県上野村に是非とも見たい樹と訪れたい場所ありました。見たい木は「シオジ」。

シオジは、モクセイ科 トネリコ属でアオダモやヤチダモの仲間です。

九州ではシオデと呼ばれ 漢字表記は 柾樹、 柾+〇(木偏に壽) 冷温帯の溪流沿、いわゆる溪畔林を構成します。本州・四国に分布し群馬県利根村が北限、生育地としては秩父山地が有名ですが群馬県上野村北沢溪谷(国有林)のシオジ原生林は国の天然記念物、秩父は車で1時間程度なので上野村は秩父山地に接しています。

シオジは樹高が高く30m超も普通にあります。幹は通直で完満、直径1.5m以上 単幹性(株立ちしない) 葉は奇数羽状複葉で小葉は7~9枚、雄株と両性株がある、翼を持った種子は風で飛ぶが遠くへは飛ば

ない、稚樹は耐陰性が強い、材は建築（建具 床柱）家具 テーブル バット 楽器 ピアノ外板 木工品（漆器）いわゆる銘木の一つです。サワグルミ、カツラと混交する傾向がありアワブキ、フサザクラ、チドリノキが下木層にありスズタケは少ない林相に生育しています。

これだけの予備知識を持って上野村神流川源流の中之沢へ。

シオジは奥多摩などで幼木や幼齢木は見ているが大木にはこれまで出会えていない、前橋営林局（関東森林管理局）の勤務時代に上野村の国有林のシオジの大木の話聞いて一度は見たい憧れの樹です。本当は北沢溪谷の原生林を見たかったのですが、片道3時間と聞いて二の足を踏んでしまいました。

さて、中之沢のシオジ。落差20mのオボロカヤの滝の対岸に大木がありました。対岸に渡るのは少し難儀でしたが、ここまで来てそばに行かないのは折角逢った愛しい人の体温を感じないで帰るようなもの。ガイドさんに許しをもらって大木のそばへ。

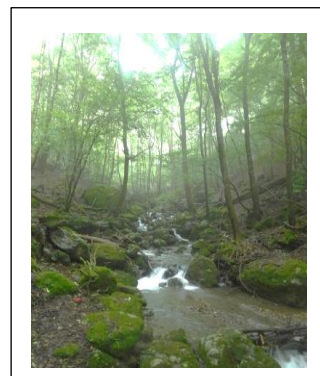
樹高は35mを越し胸高直径も100cmはある。樹皮は浅黒く荒い。思った通りの樹であり胸がキューンとなりおもわず抱きつきました。株の周りをまわってみるとふかふかの良い土壌、これだけの樹高を支えるので根も深く広く張っているのでしょう。シオジと混交する樹も下木も地表植生も予備知識のとおりです。稚樹の発生も確認。葉っぱは高くとても取れないので稚樹で確認しました。



シオジの大木



樹肌



シオジがある溪畔林

そして行きたい（いかなければならない）場所は、日航機墜落事故の犠牲者を祀る「慰霊の園」

墓石に刻まれた520名の名前、事故の記録と当時を振り返るビデオを見ると今更ながらに悲しみが襲ってきました。

ここに祀られた方々は突然の死に直面してどんな精神状態だっただろうか。これらの方々の生きたかったとの想いと、犠牲者の救助に奔走し、心から嘆き悲しみ、遺族を慰め、そして事故を繰り返してはならないとの上野村村民の想いがひしひしと伝わってくる場所でした。

上野村の真ん中を神流川が流れています。台風19号による土砂崩れや水害があったようで、被害が小さいことを願ってやみません。

- ①「全買連ニューズレター」では皆様の投稿をお待ちしております。
- ② 全買連ニューズレターに広告を掲載できます。

詳細は事務局にご相談下さい。